

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立竹木場小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>○学校教育目標 「夢を語って、夢を追う児童生徒の育成」～怒・克己・感謝を心の真ん中において～ のもと、県指定小中連携研究を柱に校区内学校と連携した取り組みを進めている。学力向上、人権・同和教育、先進校視察に係る合同研修も実施し共に研鑽を積んだ。地域や保護者の学校への参画や情報の提供についても、高評価をいただいております。引き続き連携を進めていく。</p> <p>○年間目標であるあいさつについては、児童主体のあいさつ運動を2回実施した。保護者からは、児童が元気に挨拶をしていると評価をいただいております。これまでにいじめとして認知した事案は2件あるものの、児童は教師がよく話を聞いてくれると評価しており日頃の細かな配慮が、児童の変化を早めにとらえることにつながっているといえる。</p> <p>○学力向上については、小中連携研究を柱に、家庭学習の工夫や学習計画書の作成など具体的に取り組むことができた。県や唐津市が推し進める、「授業づくりの1, 2, 3」や「アクションプラン」も教師に定着してきており、意識した授業づくりが行われている。</p> <p>○危機管理体制については、日々の取り組みに加え避難訓練の工夫など対応を行った。一方、突発的な事案に対する対応への想定は難しいところもある。業務改善については、過度な超過勤務はなく勤務時間についてはほぼ適正であるといえる。ただ、個人々の取り組みは十分でないという声も多く、来年度へ向けた課題である。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	夢を語って夢を追う児童生徒の育成 ～「継続」・「挑戦」・「進化」～
----------	-----------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>○中学校区内の学校連携に根ざした校内研究（キャリア教育・学力向上）の推進</p> <p>○児童会・生徒会活動の活性化</p> <p>○わかる授業の構築と確かな学力の育成</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間で学力向上対策評価シートを共有するとともに、校内研修等によりマイプランの取組を促進する。	A	・学力向上対策評価シートと唐津市アクションプランのもとに、意見の交流や考えを表現する学習活動を積極的に取り入れ、目標を達成した教師は80%を超えている。	A	・授業の様子を見ると、児童は一生懸命学習に取り組んでいて、先生方が授業を工夫されているのもよく分かった。今の取組を続けて欲しい。
	○基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫と実践	○「授業と関連した宿題を出すことを意識している」と回答した教師80%以上	○「家庭学習の充実を図る手立てを實踐し、校内研究で深める。」	・家庭学習の充実を図り、児童・保護者アンケートでは、「宿題を頑張っている」と回答した児童は、80%を超えた。また、「授業と関連した宿題を出すことを意識している」と回答した教師も80%を超えているが、授業で活用する予習的な内容について、特に、反復練習の必要な低学年では難しいと感じている。	A	・「素直で温かな児童が多く、過ごしやすい環境だと感じる。対外的にも活躍できるように、もっと個性を発揮して、持てる力を表出できるように育て欲しい。」	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達に思いやりの心をもち、仲良く過ごすことができる」と回答をした児童生徒80%以上	・道徳教育全体計画、人権・同和教育全体計画の具体化を推進し、学校教育のあらゆる場面で心の教育の充実を図る。	A	・道徳の授業や集会・講話など、機会をとらえて、自分も友達も大切に思う心を育んだ。「友達に思いやりの心をもち、仲良く過ごすことができている」と回答している児童は、90%を超えている。	A	・人にに対する優しさや困難を跳ねのけるたくましさや兼ね備え、地域に貢献できる大人になることを望んでいる。トラブルに対応する過程で学ぶこともあり、お互いに理解し合い解決していけるようになって欲しい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学級での心地よさを感じることができる児童の割合を90%以上に上げる。	・生活アンケートやいじめ調査を定期的に実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。	A	・各種アンケートや日常の観察を通して、悩みを抱える児童の把握とその解決に取り組んだ。「学級の友達と過ごすことが楽しい」と感じている児童は、90%を超えている。	A	・学校・保護者・地域の協力があり、子どもたちを見守る環境が整っている。継続して取り組んでいって欲しい。
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・教職員、保護者、交通指導員による登校時の安全指導、及び、交通安全教育を計画的・継続的に行う。	A	・地区の交通指導員、育友会の協力で、朝の見守り活動を継続している。下校時の一斉指導の機会を活用し、交通安全の観点から注意喚起を行った。今年度も、児童の交通事故0(ゼロ)が続いている。	A	・ほとんどの職員は基準内の時間で業務に取り組んでいる。基準を上回る職員も、目標時間を設定したことで、年度当初に比べると改善している。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・時間外記録票を基に勤務実態を把握し、声掛けを行う。	B	・取組ははされていると思うが、改善は難航しているようである。児童の教育環境を豊かにするために、先生方の働き方改革を推進して欲しい。		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○キャリア教育	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・5, 6年生のマナー検定や職業講話への参加を継続して行う。 ・生活科や総合的な学習の時間にキャリア教育を意識した単元を構成していく。	A	・マナー検定や職業講話を通し、将来のことについて考えるようになった。また、地域の方との交流や体験活動を通して、自分をとりまく地域や環境のことについて学ぶことができている。「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は、90%を超えている。	A	・これから、健全な職業観を身につけさせ、思い描く夢や希望に向かって努力できるように支援・指導をお願いしたい。
○特別活動の充実	○児童の主体的活動の活性化	○「友だちの意見をよく聞いて考えることができた」と回答する生徒80%以上	・運営委員会や実行委員会を中心に、集団をまとめさせる機会をつくり、学校行事の活性化を図る。	A	・委員会を中心に、学校行事や集会など、計画や準備の段階から児童の出番が確保されている。教師は、支援する立場から児童を見守り、児童の達成感を向上させることができた。「友だちの意見をよく聞いて考えることができた」と回答する児童は、90%を超えている。	A	・意見を出し合うことで、それぞれの考えの違いを調整し、一緒に活動できることが大切である。子どもたちの頑張りを応援するためにも、保護者や地域の交流をすすめていきたい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・学校教育目標 「夢を語って、夢を追う児童生徒の育成」～「継続」「挑戦」「進化」～のもと、県指定小中連携研究を柱に中学校区内の学校間で連携した取り組みを進めている。4校による合同研修や推進会議を実施し、協力・交流の機会や情報の共有を通して、学力向上、キャリア教育、人権・同和教育など、共に研鑽を積んだ。</p> <p>・学力向上については、佐賀県や唐津市が推し進める、「授業づくりの1, 2, 3」や「アクションプラン」をもとに、小中連携による研究に添って、単元による学習計画書の活用と授業と連動した家庭学習の工夫に取り組んだ。教師間で協議を重ね、学習計画表を活用して単元をひとまとまりにした授業が定着しており、家庭学習との連動にも意識した授業改善が進んでいる。</p> <p>・児童主体のあいさつ運動を実施しているが、中学生にならない、立ち止まりあいさつに取り組む児童が増えている。学校行事においても児童の出番が確保され、自分たちの手で行事を成功させたという達成感を感じさせることができています。</p> <p>・業務改善については、過度な超過勤務はなく勤務時間についてはほぼ適正であるといえる。ただ、時期的・個人的にみると、取組が十分でないこともあり、より効率よく業務を分担していくことが、来年度へ向けた課題である。</p>
--------------------	---